

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

女傑ぶりに益々磨きがかかるつている欧洲ハーフドール界のスーパーヒロイン、アニー・パワー(牝8)が、今回のこのコラムの主役である。

4歳8月に、生産者イーモン・クリアリーの所有馬としてデビューしたアニー・パワー。ナショナルハントフラットを2連勝した段階で、大馬主のリッチ・リッジー氏がトレードで獲得し(馬主名義はスザンナ夫人)、同時にジム・ボルジャー厩舎から障害の名門ウイリアム・マリンズ厩舎に転厩。ナショナルハントフラットをもう1戦し、これを61馬身という驚異的な着差で勝利するといよいよハーフドールに転身することになった。

レースでもトントン拍子で勝利を重ねたアニー・パワーは、ハーフドール3戦目でナースのG2ノーヴィスハーフドール(芝16F)を制して重賞初制覇を果たすと、続くフェアリーハウスのG1メアズノーヴィスハーフドルCSファイナル(芝20F)も勝ち、無敗の7連勝でG1制覇を果たして、ハーフドール初年度を終えた。

ハーフドール2季目となつた13／14年シーズンも開幕から3連勝を飾つたが、遂に連勝が止まる時を迎えたのが、チエルトナムエスティヴァルだ。チエルトナムエスティヴァルだった。チエルトナムエスティヴァルにはG1メアズハーフドルに出走予定開催にはG1メアズハーフドル(芝20F)という、牝馬のハーフドールにとって頂点となるレースが組まれているが、陣営がアニー・パワーを出走させたのはハーフドール3マイ

ル路線の最高峰G1ワールドハーフドル(芝23F213Y)だった。ここで彼女は、彼女同様にデビューから無敗でここまで來ていた驅馬モアオヴザットの後塵を拝し2着に敗れてしまったのである。

続くパンチエスタンのG1メアズチャンピオンハーフドル(芝18F)を快勝して夏休みに入ったアニー・パワーは、翌シーズンの開幕直後に脚部不安を発症。なんとシーズン緒戦がチエルトナムエスティヴァルとなつた。前年のこともあり、なおかつ、仕上がりに不安もあつたことから、この年は牝馬限定のG1メアズハーフドルに出走したアニー・パワーだったが、あろうことか、先頭で迎えた最終障害で飛越に失敗。生涯初の落馬を経験する破目に陥つたのである。

この年も、次走のG1パンチエスタン・メアズチャンピオンハーフドルをきつちりと制してシーズンを終え、いよいよ迎えた今季。開幕後にまたも一頓挫があつたものの、2月には戦列に復帰することが出来て、パンチエスタンの一般戦を走つて勝利を収めた上で迎えた3度目のチエルトナムエスティヴァルで、ドラマが用意されていた。

当初はG1メアズハーフドルに出走予定だったアニー・パワーだが、ハーフドール2マイル路線の最高峰G1チャンピオンハーフドル(芝16F87Y)の大本命に推されていて、アニー・パワーと同馬主・同厩舎のフォービー

ーンが本番直前に故障で戦線を離脱。陣営はフォービーンの名代として、アニー・パワーをチャンピオンハーフドルに向かわせることを決めたのである。

過去85回の歴史で牝馬の優勝は3例しかないというチャンピオンハーフドル。先頭に立つたアニー・パワーが、前年飛越に失敗した最終障害を無事クリアすると、場内の観客は早くも総立ちの状態へ。そして彼女が、牡馬の精銳を相手に4・1/2馬身差の勝利を收め、3度目の挑戦で遂に悲願のチエルトナムエスティヴァル制覇を果たすと、観客たちのスタンディングオベーションがいつもでも鳴りやまないという、感動的な光景が展開された。

そして、チャンピオンハーフドルを更に上回るウルトラパフォーマンスが見られたのが、4月7日に行われたG1エイントリー・ハーフドル(芝20F)だった。チャンピオンハーフドルの上位4頭がこそつて出走しているというハイレベルの一戦を、アニー・パワーは18馬身差で圧勝。84年にG1チャンピオンハーフドルを、86年にステイープルチエス3マイル路線の最高峰G1チエルトナムGC(芝26F70Y)を制した伝説の牝馬ハーフドラー・ドーンランと、並び称される存在になつてゐる。

ステイープルチエス転向も噂されいる今後のアニー・パワーに、日本の競馬ファンの皆様もぜひご注目いただきたい。